

CCI 文部科学省科学研究補助金
基盤研究 (S)

アフリカ狩猟採集民・農牧民の
コンタクトゾーンにおける子育ての
生態学的未来構築

ANNUAL REPORT
年次報告書
2023

目次 Contents

2023 年度を振り返って

研究代表 高田 明	03
-----------------	----

活動報告

海外派遣報告	06
主な業績	09
関連イベント	13



2023年度を振り返って

研究代表 **高田 明** (京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科・教授)

Principal Investigator: **TAKADA Akira** (Kyoto University, Graduate School of Asian and African Area Studies, Professor)

私が代表者として独創的な共同研究者たちと推進してきた科研費基盤研究S「アフリカ狩猟採集民・農牧民のコンタクトゾーンにおける子育ての生態学的未来構築」の第2年度となる2023年度の年次報告書をお届けいたします。

私が専門とする人類学はこれまで、個人の社会化と社会の再生産の関係についてのさまざまな議論を繰り広げてきました。たとえば高名なフランスの人類学者である Bourdieu(1977/1989) は、一見すると自然で物理的な法則を反映しているような身体的性向が、実は文化的に形成されていることを見出しました。そして私たちの知覚・思考・行為を生み出すそうした身体的性向をハビトゥスと呼び、さらにハビトゥスが教育における選択や評価と結びつくことで階級構造に基づく社会秩序が再生産されることを豊富な資料と共に示しました。これにより Bourdieu は、諸個人の能力や業績に基づいて社会的地位が決定されるという近代社会の原則に欺瞞があることを喝破し、その研究成果や提言は欧州を中心とする諸国家の教育制度改革につながってきました。その一方で上記のハビトゥス論には、ハビトゥスが形成される間主観的過程やそれと環境の関わりが十分論じられていないという批判があります(e.g. Takada 2020)。さらに近年、気候変動、経済格差の拡大、パンデミックなどがグローバルかつ急速に進み、未来の予測がますます難しくなっています。こうした状況で、私たちの「心」をつなぐ間主観性 (Merleau-Ponty 1945/2002) の形成過程やそれと環境との関わりについての経験論的な議論を進めること、それに基づいて社会化と社会の再生産の関係について再考し、次世代に向けてよりよい未来の構築を支援 (Appadurai 2013) していくことの必要性が高まっています。

こうした問題意識を受けて、本プロジェクトは、人生の初期(0～5歳)における主体、他者、文化、環境の結びつきを、養育者-子ども間相互行為 (Caregiver-Child Interaction, 以下CCI) を通じてハビトゥスとマイクロ・ハビタット (相互行為を可能にする構造化された場; Ochs et al. 2005) が相互構築されていく仕組みと考えています。乳幼児は間主観性を発達させることでハビトゥスを形成します。その過程では、生得的行動をその文化にあわせて社会化し (行動の社会化)、他者が話す言語を身体化して使いこなし (言語の身体化)、外在する制度を内面化して自分や社会を律して行く (制度の内面化)。また、これらに対応した行動環境、言語環境、制度環境がマイクロ・ハビタットを構成していきます。ハビトゥスとマイクロ・ハビタットは循環的に相互作用しますが、マクロな環境変化が生じるとそうした相互作用自体が再編されていくと想定されます。本プロジェクトではこのモデルを受けて、ボツワナ、ナミビア、カメルーンを主な調査地域としたアクション・リサーチを行っています。

2023年度(令和5年度)は、まず研究員3名(新規1名)と事務補佐2名を雇用し、研究実施に必要な機器や資料の購入、文字起こしの業務委託を行いました。また、フィールド調査や国際学会での発表のために研究者を海外に派遣したり、セミナー等のために海外研究協力を招へいしたりしました。そのおもだった成果は以下の通りです(詳細については、以下をご参照ください <<https://www.cci.jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/efm/report/>>).

1. ボツワナ

代表者、分担者、代表者の指導院生らがハンツイ、ニューカデ村などを訪問し、本事業に関わる研究打合せとフィールドワークを行いました。ハンツイでは、分担者の中川裕さんと言語学を専門として長年サンの開発事業に従事してきた Hessel & Coby Visser 夫妻を訪問し、中川さんがここ数年精力的に推進してきたガイ語の辞書や正書システムについて快いお庭の風景や夕食を囲みながら重要な意見交換を行いました。ニューカデでは、まず行動の社会化(テーマ(1))に関して、代表者の指導院生である野口朋恵さんらと子どもの健康診断や住人の酒場での活動データを収集しました。言語の身体化(テーマ(2))については、上記の正書法に従って本事業で制作したガイ/ガナの民話に基づく紙芝居(技術補佐員の中山恵美さんにユニークなセンス溢れる画を描いてもらいました)を持参し、住人の居住エリア、OSET、小学校などで朗読してもらい、それを動画に収めました。野口さんとは、住人と生活における悩みや希望を整理するためのコミュニティ・ブックレットの作成も企画しています。制度の内面化(テーマ(3))に関しては、ガイ/ガナの伝統的な日用品や観光向けの装飾品を販売するため最近オープンしたニューカデ・サン・クラフトショップで調査を行いました。これは本プロジェクトでの伝統文化の再活性化や集団アイデンティティの(再)構築という関心にも響くものであり、今後もその活動の展開に注目していきたいと考えています。

2. ナミビア

代表者とその指導院生らがナミビア国立資料館・図書館、ナミビア大学、ナミビア・福音ルーテル教会オニパ(Oniipa ELCIN)、エンハナなどを訪問し、本プロジェクトに関する文献収集、研究打ち合わせ、データ収集などを行いました。テーマ(1)に関しては特に、代表者とその指導院生である渡邊麻友さんや河尻みつ

さんらとエンハナの赤十字社や情報・コミュニケーション技術省を訪問し、子どもの食生活や教育活動についての意見交換と聞き取り調査を行いました。テーマ(2)とテーマ(3)に関しては、Oniipa ELCIN で行ったフィールドワークが特筆に値します。オニパには長年 ELCIN のヘッドクォーターが置かれており、教会とそれに関連した図書館、出版局、病院、ゲストハウスなども敷設されています。ナミビア北中部から拡がり、サンの教育開発やナミビアの建国にも大きな影響を与えた ELCIN の動向やそれに関わった人々については渡邊さんが博士研究のテーマとして今後も調査を進めていく予定です。また同地では、現地で博物館のキュレーターや住民の開発運動に携わっている Nghikefelwa 氏(こうした素晴らしい在野の才能と出会えることがアフリカでのフィールドワークの喜びの一つです)らと引き続きエコカ村もしくはインターネット上にクンヤアコエの民族博物館を設立する構想について打合せを行いました。

3. カメルーン

代表者の指導院生らが東部州で、バカの乳幼児が複数の養育者による子育ての文化の中で、誰に愛着を形成して集団活動に参入し、バカの特徴ある行動様式を身につけていくのかを明らかにすることを目的とした長期フィールドワークを実施しました。テーマ(1)に関しては、まず代表者の指導院生である田中文菜さんがバカの乳幼児を対象としてフォーカルサンプリング法を用いた行動観察を行いました。行動の項目は、クンを調査した Takada(2010, 2014)に基づいており、乳幼児の行動の項目としては、集団遊び活動、運動、発声・表情、寝食、愛着行動など、養育者のケアの項目としては、発声・表情、身体接触、愛情表現、授乳、身の回りの世話などに関するものからなります。テーマ(2)については、頻繁に観察されたバカの子守唄の動画の収録などを行いました。これについての大きな成果として、田中さんが 2023 年度末に素晴らしい博士論文

をまとめたことがあげられます。田中さんや代表者はさらに今後、これらのデータを用いて相互行為分析や民族音楽学的な分析を行っていく予定です。テーマ(3)に関しては、環境知識や環境教育に関するアクション・リサーチの一環で、研究員の林耕次さんや技術補佐員の中山恵美さんらとサンテーションに関する紙芝居を制作し、現地の村で朗読やそれについての意見交換を行いました。また、在来の子育てや障害児ケアに福祉政策導入が及ぼす影響を論じるために、遊動生活に関する調査や子育てに関する聞き取り調査を行いました。

4. 全体

2023年度は、特に言語の身体化に焦点を当てて7回のデータセッション(DS)を行い、収集されたデータの分析の妥当性を検討すると共に若手研究者の育成を進めました。また、本事業が主催して「子育ての生態学的未来構築コロキウム」の第2回～第5回を開催しました。これらのコロキウムでは、海外(e.g. 米国, ナミビア, ドイツ, ボツワナ)からの研究協力者を招へいして本事業に関連する発表をしてもらい、さらにその滞在中に今後の一層の研究協力についても議論を行いました。また、日本での一般向けアウトリーチ活動として本事業の代表者(高田), 分担者(安岡), 研究協力者(原田), 研究員(林, 杉山)がアフリカ地域研究資料センターの公開講座(第1回～第5回)を担当し、その研究について紹介しました(詳細については、以下をご参照ください<<https://www.cci.jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/efm/seminar/>>)。本事業の成果はさらに、各種研究会・学会等での発表(e.g. ドイツで開催された「第9回欧州アフリカ研究会議」, オーストラリアで開催された「The International Conference on Conversation Analysis(ICCA2023)」, ベルギーで開催された「第18回国際語用論学会」)に加え、本事業専用のHP(<<https://www.cci.jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/efm/>>)で随時公開しています。

参照文献

Appadurai, A. (2013) *The future as cultural fact: Essays on the global condition*. London: Verso.

Bourdieu, P. (1989) *Outline of a theory of practice*. Cambridge, UK: Cambridge University Press. (originally published in French in 1977)

Merleau-Ponty, M. (2002) *Phenomenology of perception*. New York: Routledge. (originally published in French in 1945)

Ochs, E. Solomon, O. & Sterponi, L. (2005) Limitations and transformations of habitus in Child-Directed Communication. *Discourse Studies*, 7(4-5), 547-583.

Takada, A. (2010) Changes in Developmental Trends of Caregiver-Child Interactions among the San: Evidence from the !Xun of Northern Namibia. *African Study Monographs, Supplementary Issue*, 40, 155-177.

Takada, A. (2014). Kinship and caregiving practices among the Ekoka !Xun. In A. Barnard, & G. Boden (Eds.), *Southern African Khoisan kinship systems*. Research in Khoisan Studies Volume 30. Cologne, Germany: Ruediger Koeppel Verlag Koeln, pp. 99-120.

Takada, A. (2020) *The ecology of playful childhood: Caregiver-child interactions among the San of southern Africa*. Palgrave Macmillan.

海外派遣報告 2023.4-8

杉山 由里子 (京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 研究員)

派遣先: ドイツ / 派遣期間: 2023/5/29 - 6/10

ケルン大学グローバル・サウス研究センター (GSSC) にて開催された「アフリカの未来 2023 (African Futures2023)」に参加。『家族の記憶とアフリカの未来』と題されたパネルにて「喚起的な繋がり：ボツワナにおける移住政策とサン」の発表をおこなった。



「アフリカの未来 2023」中に開催されたラウンドテーブルの様子

高田 明 (京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授)

派遣先: オーストラリア / 派遣期間: 2023/6/27 - 7/2

ブリスベンのクイーンズランド大学で開催された The International Conference on Conversation Analysis Analysis (ICCA2023) に参加し、パネル “Exploring Social Norms across Languages” にて発表をおこなった (Norms and practices that enrich storytelling among the G|ui G|ana of the Central Kalahari).



クイーンズランド大学のキャンパスにて

高田 明 (京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授)

派遣先: ベルギー / 派遣期間: 2023/7/8 - 12

ブリュッセル自由大学で開催された第 18 回国際語用論学会 (18th IPrA) に参加し、共同研究者の森田笑博士 (シンガポール国立大学) とともにパネル・ディスカッション Arts of Distancing in Talk-in-Interaction をオーガナイズ。以下の発表をおこなった。

- Introduction to “Arts of distancing in talk-in-interaction” (Akira Takada, and Emi Morita) - Pragmaticization (?) of the Japanese honorific suffix-haru as a resource to mark agentive “distance” (Emi Morita, and Akira Takada)



ブリュッセル自由大学のキャンパスにて

田中文菜 (京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 大学院生)

派遣先: カメルーン / 派遣期間: 2023/2/11 - 7/25

東南部州 / 熱帯雨林地域で狩猟採集民バカの乳幼児の行動と養育者達のケアについて、フォーカルサンプリング法に基づく定量的なデータ取得を伴う調査をおこなった。



村でおもちゃのバイクを作って遊ぶバカの子どもたち

詳細: 派遣報告一覧



海外派遣報告 2023.8-12

高田 明 (京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授)

派遣先: ナミビア / 派遣期間: 2023/08/05-08/23

ナミビアのナミビア国立資料館・図書館, ナミビア大学, ナミビア・福音ルーテル教会オニパ, オシカンゴ高校, エンハナなどを訪問し, 本プロジェクトに関する文献収集, 研究打ち合わせ, データ収集などをおこなった。



Oshigambo High School の外壁。左から高田さん, 大学院生の渡邊さんと河尻さん

山本 始乃 (京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 大学院生)

派遣先: ナミビア / 派遣期間: 2023/09/25-12/26

子どもと子どもを取り巻く諸要素がどのように関わっているのかを明らかにするために, 3つの村へ滞在し, 学校, 家庭, 家畜キャンプにおける子どもの様子を記録した。首都ウィントフックでは, 調査許可更新のための関連機関訪問や図書館・資料館での情報収集をおこなった。



放牧中の様子

高田 明 (京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授)

派遣先: ボツワナ / 派遣期間: 2023/12/14-2024/01/03

フィールドワークとアクション・リサーチをおこなった。ハンツイでは, 中川裕教授と一緒に, 言語学や聖書の翻訳をはじめとするサンの開発事業に従事してきた Hessel & Coby Visser 夫妻を訪問した。ニューカデ村では, 指導院生の野口朋恵さんらと共に本プロジェクトで推進しつつあるグイ/ガナの民話の再活性化をねらった紙芝居のパフォーマンスのアレンジをおこなった。

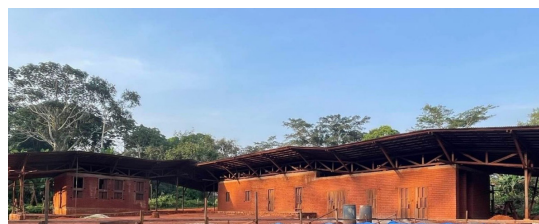


ニューカデ・サン・クラフトショップの外観

安岡 宏和 (京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授)

派遣先: カメルーン / 派遣期間: 2023/12/07-12/19

東南部州 / 熱帯雨林地域で, 研究・社会実装活動を視察するとともに, 建設中のフィールドステーションの活用をふくめて, これらの活動を基盤研究Sの研究にどのようにつなげていくかについて議論をおこなった。首都ヤウンデでは, フィールドステーションを運営している国立農業開発研究所 (IRAD) の研究者と会議をおこなった。



建設中のズーラボット・フィールドステーション

詳細: 派遣報告一覧



海外派遣報告 2024.2-3

林 耕次 (京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 研究員)

派遣先: カメルーン / 派遣期間: 2024/02/17-03/15

東南部州 / 熱帯雨林地域で狩猟採集民バカを対象に, Association Tam-Tam Mobile (NGO) 代表の Simon = Pierre Etoga 氏, ASTRADHE (バカの教育支援などを行う NGO) の Aleka Raymond 氏, Association Okani の代表 Benant Messe 氏, 農耕民 (Jeme) の Mintiet Christoph 氏などの協力のもと紙芝居を用いたアクション・リサーチをおこなった。



森のキャンプ滞在中の子どもたちに中山さんが描いた紙芝居をみてもらった

紙芝居を用いたアクション・リサーチ

第1作目 『ツチブタ女の物語』 (ガイ・ガナの民話)

場所: ボツワナ

対象: ガイ・ガナ

<https://www.cci.jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/efm/takada20231214/>

第2作目 衛生意識を育むことを意図した紙芝居

場所: カメルーン

対象: バカ

<https://www.cci.jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/efm/2024-02-17-2024-03-15hayashi/>



『ツチブタ女』の紙芝居より (作画: 中山恵美)



衛生意識を育むことを意図した紙芝居図 (作画: 中山恵美)

詳細: 派遣報告一覧



主な業績

論文

Burdelski, M. 2023. Interpersonal touch in guided walking: Socialization to be pedestrians in Japan. *Learning, Culture and Social Interaction*, 41.

DOI: <https://doi.org/10.1016/j.lcsi.2023.100732>

Fujioka, Y. 2023. Classification of Daily Food Sets in an Agro-Pastoral Society in North-Central Namibia: A Comparison of Cluster Analysis and Two-Way Indicator Species Analysis. *African Study Monographs Supplementary Issue* 61. 187-203. <https://doi.org/10.14989/282795>

Gomi, R., Matsumura, Y., Yamamoto, M., Tanaka, M., Komakech, A. J., Matsuda, T., Harada, H. 2024. Genomic surveillance of antimicrobial-resistant *Escherichia coli* in fecal sludge and sewage in Uganda. *Water Research* 248, 120830-120830. 10.1016/j.watres.2023.120830

林 耕次. 2023. バカ・ピグミーの子どもの衛生感覚：水くみ・トイレ・調理の様子から。(学界通信：日本アフリカ学会第60回学術大会フォーラム報告「子どもをめぐるコミュニケーションと健康」)『アフリカ研究』104, pp30-33.

平山草太. 2024. カメルーンにおけるイスラーム関連書物の利用，京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 博士学位論文。

河尻みつき. 2024. ナミビア・ヒンバ社会における「伝統的」及び「近代的」装いの実態，京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 博士予備論文。

Miyake, E., & Takada, A. 2023. Land use and interethnic relationships between the !Xun and the Ovambo in post-independent north-central Namibia. *Hunter Gatherer Research*, <https://doi.org/10.3828/hgr.2023.9>, doi:10.14989/207689

Moonkwin, J., Huynh, L. T., Schneider, M. Y., Fujii, S., Echigo, S., Nguyen, L. P. H., Hoang, T-H. T., Huynh, H. T., Harada, H. 2023. Challenges to Accurate Estimation of Methane Emission from Septic Tanks with Long Emptying Intervals. *Environmental Science & Technology* 57(43), 16575-16584, 10.1021/acs.est.3c05724

Naing, W., Harada, H., Fujii, S., Hmwe, C. S. S. 2023. A simplified material flow analysis employing local expert judgment and its impact on uncertainty. *Journal of Material Cycles and Waste Management*, 25, pp.2101-2112. DOI: 10.1007/s10163-023-01660-5

Nakagawa, H. 2024. Onomatopoeia in Glui (Kalahari Khoe), Onomatopoeia in the World's Languages: 197-207

Nakagawa, H., Witzlack-Makarevich, A., Auer, D., Fehn, A-M, Ammann, L. G., Güldemann, T., Job, S., Lionnet, F., Naumann, C., Ono, H. & Pratchett, L. J. Towards a phonological typology of the Kalahari Basin Area languages. *Linguistic Typology*, Published Online: 2023-05-12.

Noguchi, T. & Takada, A. 2024. Help to climb up: Impacts of modern education among the Glui and Glana. *Hunter Gatherer Research*. <https://doi.org/10.3828/hgr.2024.4>

Nyambe, S., Kataoka, Y., Hanyika, S., Yamauchi, T. 2024. "I See You" – Visualizing Water, Sanitation, and Hygiene with Children and Youth in Peri-Urban Lusaka, Zambia. *TRAJECTORIA* 5. 10.51002/trajectory_024_04 <https://www.degruyter.com/document/doi/10.1515/lingty-2022-0047/html?lang=en>

Rifqi, M. A., Hamidah, U., Sintawardani, N., Harada, H., Nyambe, S., Sai, A., Yamauchi, T. 2023. Effect of handwashing on the reduction of *Escherichia coli* on children's hands in urban slum Indonesia, *Journal of Water and Health* 21(11), 1651-1662, 10.2166/wh.2023.121

Sai, A., Konishi, T., Nishiyama, H., Yamazaki, M., Hao, M., Yamauchi, T. 2023. The Physical and Mental Health Status of the Homeless in a Cold Region of Japan: Alcohol Intake, Diet and Psychosocial Distress. *International Journal on Homelessness*, 3 (2), pp.139-155. DOI: 10.5206/ijoh.2022.2.14682

Sato, K., Hamidah, U., Sai, A., Ikemi, M., Ushijima, K., Sintawardani, N., Yamauchi, T. 2023. The Impact of Water, Sanitation, Hygiene and Menstrual Education on Menstrual Hygiene Management Practices in an Urban Slum of Indonesia. *Sanitation*, 7(2), pp.25-42. DOI: 10.34416/sanitation.00007

Strande, L., Evans, B., Sperling, M. V., Bartram, J., Harada, H., Nakagiri, A., Nguyen, V-A. 2023. Urban Sanitation: New Terminology for Globally Relevant Solutions? *Environmental Science & Technology* 57(42), 16575-16584, 10.1021/acs.est.3c05724

杉山由里子. 2023. ブッシュにもつれる生と死 —サン人の過去・現在・未来の構築—, 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 博士学位論文。

田中文菜. 2024. 狩猟採集民バカの幼児の愛着と歌と踊りへの参加。『質的心理学研究』23(1), pp.174-194.

田中文菜. 2024. 愛着と養育—カメルーン東南部の狩猟採集民バカの乳幼児と養育者の相互行為の民族誌—, 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 博士学位論文。

Tanaka, J., Noguchi, T., & Takada, A. 2024. Interview with Jiro Tanaka. *Hunter Gatherer Research*. <https://doi.org/10.3828/hgr.2024.1>

Takada, A. & Dan-Glauser, E. 2024. Decoding the complexities of emotion socialization: cultures, individual features and shared information. *Scientific Reports* 14, 3536. <https://doi.org/10.1038/s41598-024-52885-9>

高田 明. 2023. 音楽的社会化への相互行為の人類学的アプローチ。『音楽教育学』52(2), pp.34-41.

Yokoya, S., Suzuki, K., Sai, A., Yamauchi, T. 2023. Exploring the Barriers and Coping Strategies Faced by Male Nursing Students in Japanese Nursing Education. *Asian Nursing Research* 17(4). 219-225, 10.1016/j.anr.2023.08.003

書籍 (単著, 編著)

クック岸治子・高田明(編). 2023. 『日本における言語社会化ハンドブック』. 東京: ひつじ書房.

藤岡悠一郎. 2023. 34. 乾燥帯(砂漠気候BW)の生活文化 雨の少ない乾燥帯のナミビアでは人びとはどのように暮らしているのだろうか. 横山智・湖中真哉・由井義通・綾部真雄・森本泉・三尾裕子(編)『フィールドから地球を学ぶ—地理授業のための60のエピソード』. 古今書院, pp. 138.

高田 明. 2023. 相互理解と文化. 大内雅登, 山本登志哉, 渡辺忠温(編), 『自閉症を語り直す: 当事者・支援者・研究者の対話』. 東京: 新曜社, pp.173-184.

高田 明. 2023. 言語人類学とエスノメソドロジー・会話分析の関わり. 山崎敬一, 浜日出夫, 小宮友根, 田中博子, 川島理恵, 池田佳子, 山崎晶子, 池谷のぞみ(編), エスノメソドロジー・会話分析ハンドブック. 東京: 新曜社, pp.28-36.



主な業績

高木智世, 森田 笑. 2023. 会話分析の方法論. 山崎敬一, 浜日出夫, 小宮友根, 田中博子, 川島理恵, 池田佳子, 山崎晶子, 池谷のぞみ (編), エスノメソドロジー・会話分析ハンドブック. 東京: 新曜社, pp.149-159.

その他刊行物

江戸川夏樹, 原田英典 (2023). きょう「トイレの日」世界の5人に1人に不自由 インフラ老朽化も. 朝日新聞デジタル. 2023/11/19.

江戸川夏樹, 原田英典. 2023. 世界のトイレ事情 知ってますか. 朝日新聞 (夕刊). 2023年11月18日.

Fujimoto, T., Fujioka, Y., Sato, Y. (eds.) 2023. Progress in African Food Culture Research. *African Study Monographs Supplementary Issue 61*.

京都大学, 原田英典. 2023. 水・衛生改善と下痢リスク低減に向け 京大、ザンビア大と共同研究協定を締結. 文教速報. 2023年12月20日.

京都大学, 原田英典. 2023. 京都大学 ザンビア大学と共同研究協定. 週刊文教ニュース. 2023年12月18日.

塩野義製薬, African Mothers, 原田英典. 2023. 塩野義製薬「Mother to Mother SHIONOGI Project」第三期事業における連携事業の契約締結について - タンザニアでの下痢症予防を目的としたアプリ開発 -. 日経BP 日経バイオテック オンライン. 2023年12月26日.

塩野義製薬, African Mothers, 原田英典. 2023. 「Mother to Mother SHIONOGI Project」の第三期事業としてタンザニアでの乳幼児の下痢症予防アプリ開発 塩野義製薬 - アプリ開発で African Mothers および原田英典京大准教授と連携契約締結 -. 医薬通信社. 2023年12月28日.

高田 明. 2024. コメント 2: ボツワナ・ハンシー地区におけるグイ/ガナの長期継続調査. 河合香史・中川尚史 (編), 『社会性の起原と進化・公開シンポジウム「海外調査地開拓のすすめ」報告書』. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・科研費基盤(S)「社会性の起原と進化: 人類学と霊長類学の協働に基づく人類進化理論の新開拓」事務局, pp.71-86.

高田 明, 森田 笑. 2023. 日本語・京都方言の敬語接尾辞「はる」の働きについて. 京都大学乳幼児発達研究グループ (編), 2022年度赤ちゃん研究員活動・成果報告書, 京都大学乳幼児発達研究グループ.

Widlok, T., Takada, A. 2023. Obituary: Alan Barnard (1949-2022). *Anthropology Today*, 39(3), pp.26.

Takada, A. 2023. Comments on “Parents, Caregivers, and Peers: Patterns of Complementarity in the Social World of Children in Rural Madagascar”, by Gabriel Scheidecker. *Current Anthropology*, 64(3) <https://doi.org/10.1086/725037>

山内太郎. 2023. 「講座 サニテーション学 (全5巻)」を出版しました. 『日本トイレ研究所アニュアルレポート'22』, 特定非営利活動法人日本トイレ研究所, pp.21-23.

基調講演・招待講演等

Harada, H. 2023. Challenges and Opportunities for Water, Sanitation and Hygiene (WASH) in sub-Saharan Africa, Seminar of Environmental Engineering/National Taiwan University. Tainan. 2023/10/26.

原田英典. 2023. 「水・衛生の役割」と「Mother to Mother

SHIONOGI Project」への期待. Mother to Mother SHIONOGI Project の新規開発事業について / African Mothers, オンライン. 2023年12月22日.

原田英典. 2023. 「アジア・アフリカの水・衛生: サニテーションの価値とは?」. 大学教員ビジット授業 / 高島高校. オンライン. 2023年12月14日.

原田英典. 2023. 「世界のトイレと天王山のトイレを考える 2023/12/03, 大山崎」. 世界のトイレと天王山のトイレを考える / 天王山にバイオトイレをつくる会. 大山崎町, 京都. 2023年12月03日.

原田英典. 2023. 「アジア・アフリカの水・衛生: サニテーションの価値とは?」. 高大連携の一環としての膳所高等学校生徒向け公開講座 / 膳所高校. 京都市. 2023年12月1日.

原田英典. 2023. し尿の始末とサニテーション: リスクと価値をどう扱うか. 「排泄の自然誌を編む」: 人類学・霊長類学・環境工学・国際保健学を跨いだクロストーク (サントリー文化財団研究助成「学問の未来を拓く」2022年採択課題公開セミナー), 信州大学, 2023年4月17日.

林 耕次. 2023. アフリカ熱帯地域における定住した狩猟採集民の生活とサニテーション. 「排泄の自然誌を編む」: 人類学・霊長類学・環境工学・国際保健学を跨いだクロストーク (サントリー文化財団研究助成「学問の未来を拓く」2022年採択課題公開セミナー), 信州大学, 2023年4月17日.

林 耕次. 2023. 子どもの日常から探る衛生感覚: カメルーン熱帯バカ・ピグミーの事例から. 京都大学アフリカ地域研究資料センター 公開講座 (第3回), 京都大学, 2023年12月9日.

林 耕次. 2024. 狩猟採集民の排泄行動 - アフリカ熱帯における個体追跡の事例より -. 第2回「排泄の自然誌を編む」研究会公開シンポジウム「出すことと出たものへのまなざし」, 信州大学, 2024年2月10日.

Takada, A. 2023. Norms and practices that enrich storytelling among the G|ui/G|ana. Paper presented at the Webinar Series of Kalahari Basin Area Network. Zoom webinar, 20th July 2023.

高田 明. 2023. コメント 2: ボツワナ・ハンシー地区におけるグイ/ガナの長期継続調査. 公開シンポジウム「海外調査地開拓のすすめ」. ハイブリッド開催 (Zoom および 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所). 2023年7月22日.

高田 明. 2023. ナミビア国概要. 2023年度 JICA 教師海外研修・派遣前研修. NPD 貸会議室: 岡山駅前. 2023年6月24日.

Yamauchi, T. 2024. Community-based WASH Research: A Global Sanitation Project. Kaohsiung Medical University, Hokkaido University, Research Exchange Workshop. Kaohsiung Medical University, Kaohsiung, Taiwan. 5th March 2024.

山内太郎. 2024. 排泄人類学とグローバルサニテーション. 第2回「排泄の自然誌を編む」研究会公開シンポジウム「出すことと出たものへのまなざし」, 信州大学, 2024年2月10日.

山内太郎. 2023. 人類生態学フィールドワーク: ライフスタイルと健康を測る. 「排泄の自然誌を編む」: 人類学・霊長類学・環境工学・国際保健学を跨いだクロストーク (サントリー文化財団研究助成「学問の未来を拓く」2022年採択課題公開セミナー), 信州大学, 2023年4月17日.

山内太郎. 2023. Future Earth (地球の未来) を共創する. WHO オフィサーと語る ~ 地球の未来と SDGs ~ / 北海道大学環境



主な業績

健康科学研究教育センター 北海道大学大学院保健科学研究院, 北海道大学医学部百年記念館, 2023年6月4日。

山内太郎. 2023. 子どもと地域で創る未来のサニテーション. 令和5年度北海道大学公開講座(全学企画)「社会変革の実現に向けた大学の役割: SDGs 研究最前線」/北海道大学オンライン, 2023年6月22日。

山内太郎, 山極壽一. 2023. 地球1つで暮らしていくために「企業に期待すること」とは? SWITCH CHAT for actions ~ Z世代が企業に期待するサステナブルアクションとは? ~ / 一般社団法人 SWiTH, SHIBUYA QWS, 2023年7月17日。

学会発表・学術報告等

Fujii, S., Harada, H., Boontanon, S. K., Tanaka, S. 2023. Comparison of Water Use and Wastewater Management Practice in 15 Communities in 7 Asian Developing Countries. 29th Joint KAIST-KU-NTU-NUS Symposium on Environmental Engineering/NSU. Singapore. 19th November 2023.

原田英典. 2023. 水・衛生に由来するリスクの可視化と住民参加型アプローチ. 世界湖沼会議(第19回)に向けたワークショップ/ILEC. 草津. 2023年09月29日。

Harada, H. 2023. Association of WASH conditions and drinking water contamination and a apoposal for the participatory risk-based WASH planning project. 11th Zambia Water Forum and Exhibition (ZAWAFE). Lusaka, Zambia, 12-14th June 2023.

Harada, H. 2023. Challenges to global WASH: potential drivers of sanitation demand Water, Sanitation, and Hygiene Development course. Environmental and Occupational Health Unit, Department of Preventive Medicine, School of Public Health, Addis Ababa University, Online, 21st June 2023.

原田英典. 水・衛生の役割とリスクの可視化に基づくアプローチ. 国際保健とアフリカ地域研究, 2023年度サマーセミナー, 日本助産学会若手活躍推進委員会(東京), 2023年7月8日。

橋瀬和秀, 岸本励季. 2023. 希少性と近接性: 曖昧発話の解釈における相互作用. 日本赤ちゃん学会第23回学術集会, 千里ライフサイエンスセンター(大阪市), 2023年8月4日-6日。

林 耕次. 2023. バカ・ピグミーの子どもの衛生感覚: 水くみ・トイレ・調理の様子から.(フォーラム: 子どもをめぐるコミュニケーションと健康). 日本アフリカ学会第60回学術大会, 幕張国際研修センター. 2023年5月14日。

河本(小川)裕子. 2024. 焼畑用地選定時における熟練者の視線. 第29回生態人類学会研究大会. 美松(福井県あわら市). 2024年3月27日-28日。(ポスター)

Matsui, S., Harada, H., Ono, S. 2023. The ash alkali composting method of feces provides excellent humanure for African agriculture in the ecological sanitation practice, Annual Conference 2023/ISS. Online. 28th November 2023.

Moonkwin, J., Huynh, L. T., Echigo, S., Harada, H. 2023. Methane emission from septic tanks with long emptying intervals. IWA Aspire Conference & Exhibition 2023 / IWA. Kaoshung. 24th October 2023.

Morita, E. and Takada, A. 2023. Pragmaticization of the Japanese honorific suffix -haru as a resource to mark agentive "distance". Paper presented at Panel "Arts of Distancing in Talk-in-Interaction", the 18th International Pragmatics Conference, Universite Libre de Bruxelles, Brussels, Belgium, 10th July, 2023.

Nyambe, S., Yamauchi, T. 2023. Community-based WASH (water, sanitation and hygiene): Using participatory action research to explore 'different ways of knowing'. Hokkaido University-University of

Melborune International Workshop "Indigenous Health: Exploring Perspectives, Well-being, and Community-based Approaches". Centennial Hall Hokkaido University, 29th June 2023.

Nyambe, S., Yamauchi, T. 2023. Water, Sanitation and Hygiene (WASH) Participatory Action Research with Children & Youth in peri-urban Lusaka, Zambia. Sustainability Research and Innovation Congress 2023, Panama City (Panama), Online, 26-30 June 2023.

Nyambe, S., Yamauchi, T. 2023. The Dziko Langa Training and Activity Manual: Leveraging positive community identity, civic participation, and self-worth for sustainable WASH. 11th Zambia Water Forum & Exhibition, Lusaka (Zambia), Online, 12-14th June 2023.

Rifqi, M.A., Hamidah, U., Sintawardani, N., Sai, A., Yamauchi, T. 2023. Hand hygiene and child diarrhea in urban slum Indonesia during the COVID-19 Pandemic, The 7th International Symposium on Green Technology for Value Chains, Bandung, (Indonesia), online, 14th November 2023.

Sai, A., Yamauchi, T. 2024. Indigeneity in Cameroon: Hygiene attitude and a sense of belonging among Baka hunter-gatherers. International Cameroon & Japan Workshop: Water, Sanitation and Hygiene in urban and semi-urban slums in Cameroon. University Yaoude I (Cameroon). 19th February 2024.

Sai, A., Sintawardani, N., Yamauchi, T. 2023. Mental Health Challenges: Faced by Urban-slum Sanitation Workers in Indonesia, The 7th International Symposium on Green Technology for Value Chains, Bandung, (Indonesia), Online, 14th November 2023.

Sai, A., Yamauchi, T. 2023. Indigeneity: Hygiene attitude and a sense of belonging among hunter-gatherers in Cameroon. Hokkaido University-University of Melborune International Workshop "Indigenous Health: Exploring Perspectives, Well-being, and Community-based Approaches". Centennial Hall Hokkaido University, 29th June, 2023.

佐井 旭, 山内太郎. 2024. カメルーンのピグミー系狩猟採集民 Baka の衛生観と帰属意識. 第29回 生態人類学会研究大会. 美松(福井県あわら市). 2024年3月27日。

佐井 旭, 山内太郎. 2023. マレーシアの都市部に居住する若年男性のボディイメージと社会文化的要因. 第88回日本健康学会総会, 弘前大学(青森県弘前市), online, 2023年12月1日。

Sambo, J., Nyambe, S., Yamauchi, T. 2023. Adopting a holistic approach for Menstrual Health and Hygiene: Possible opportunities and challenges for WASH interventions in peri-urban Lusaka, Zambia. 11th Zambia Water Forum & Exhibition, Lusaka (Zambia), Online, 12-14th June 2023.

Sunazawa, F., Nilawati, D., Hamidah, U., Sai, A., Sintawardani, N., Yamauchi, T. 2023. Menstrual characteristics and obesity among adolescent girls of Bandung, Indonesia, International Society for Sanitation Studies Annual Conference 2023, Online, 28th November 2023.

Sunazawa, F., Nilawati, D., Sintawardani, N., Sai, A., Yamauchi, T. 2023. Menstrual knowledge and attitude of schoolgirls in urban-slum Indonesia, The 6th FHS International Conference, Faculty of Health Sciences, Hokkaido University (Sapporo, Hokkaido), 20th October 2023.

砂澤楓華, 佐井 旭, 山内太郎. 2023. インドネシアの都市スラムに居住する女子学生の初経及び月経に関する知識、態度、経験について. 第88回日本健康学会総会, 弘前大学(青森県弘前市), online, 2023年12月1日。

Takada, A. 2024. 5th colloquium of ecological future making of

主な業績

child rearing: Household Food Insecurity and the Nutritional Status of San Women and Young Children in Rural Botswana, Kyoto University, Kyoto, Japan, 15th January 2024. (Organizer)

Takada, A. 2024. 4th colloquium of ecological future making of child rearing: Diversity within diversity: a description of Tshaasi, Kyoto University, Kyoto, Japan, 9th January 2024. (Organizer)

Takada, A. 2023. 116th KUASS: Survival strategies of migrants and internal displaced populations in Cameroon: Between social protection and entrepreneurship responses, Kyoto University, Kyoto, Japan, 30th November 2023. (Organizer)

Takada, A. 2023. 3rd colloquium of ecological future making of child rearing: Co-construction of Habitus and Habitat in Namibia, Combination of Zoom webinar and in-person seminar, Kyoto University, Kyoto, Japan, 28th July 2023. (Organizer)

Takada, A. 2023. 2nd colloquium of ecological future making of child rearing: The Magic Word? Oh, Please. The Interactional Functions of "Please" in Requests, Combination of Zoom webinar and in-person seminar, Kyoto University, Kyoto, Japan, 19th May 2023. (Organizer)

Takada, A. and Morita, E. 2023. "Arts of Distancing in Talk-in-Interaction". Panel organized at the 18th International Pragmatics Conference, Universite Libre de Bruxelles, Brussels, Belgium, 10th July 2023. (Organizer)

Takada, A. 2023. Norms and practices that enrich storytelling among the G|ui/G|ana of the Central Kalahari. Paper presented at Panel "Exploring Social Norms across Languages", International Conference on Conversation Analysis 2023, Brisbane, Australia, 28th June 2023.

高田 明 . 2024. 社会的距離と感情：グイ／ガナの場所をめぐる物語りの分析から . シンポジウム：情動と仮想空間 — 感覚を通じた距離と共在の再考 . 京都大学 . 2024 年 1 月 27 日 .

高田 明 (2023). 個別 4. ニホンザルおよびチンパンジーの社会的活動に対する自然環境, 集団構成, 遺伝的特徴の影響 . 第 5 回 多階層ネットワーク研究ユニット ユニット会議・研究会 . ハイブリッド開催 (Zoom および 京都大学理学部セミナーハウス) . 2023 年 11 月 8 日 .

高田 明 . 2023. コメント . 会員企画シンポジウム 17: 詩的リアリティとヴィジュアル・ナラティブ . 日本質的心理学会第 20 回大会プログラム抄録集, pp.61-62. 立命館大学大阪いばらきキャンパス . 2023 年 11 月 5 日 .

高田 明 . 2023. コメントと質問 . 共同企画 X ラウンドテーブル: 音楽的社会的化の展望: 子どもの音楽的発達を捉える思考枠組をめぐって . 日本音楽教育学会第 54 回大会プログラム, p.131. 弘前大学 . 2023 年 10 月 15 日 .

高田 明 . 2023. 少数派の感情の相互行為分析 . 会員企画シンポジウム: 改めて自閉症を語り合う: 特性と個性の間 . 日本教育心理学会第 65 回 (オンライン), 2023 年 8 月 10 日 .

高田 明 . 2023. フォーラム: 子どもをめぐるコミュニケーションと健康 . 日本アフリカ学会第 60 回学術大会, 幕張国際研修センター . 2023 年 5 月 14 日 . (オーガナイザー)

高田 明 . 2023. 南部アフリカのサンにおけるジムナスティックへの 4 つのアプローチ . (フォーラム: 子どもをめぐるコミュニケーションと健康) . 日本アフリカ学会第 60 回学術大会, 幕張国際研修センター . 2023 年 5 月 14 日 .

Takagi, T. and Sawai, Y., Y. 2023. Repair initiated by stuttering: Communication disorder or interactional commitment? Paper presented at International Conference on Conversation Analysis, University of Queensland, Australia. 30th June, 2023.

高木智世 . 2024. ターン移行空間において継ぎ足される「なん

か」 . シンポジウム「日常会話コーパス」IX (オンライン), 2024 年 3 月 18 日 .

Uz Zaman, M. D., Nyambe, S., Sai, A., Yamauchi, T. 2023. Exploring menstrual hygiene management and socio- demographic factors affecting menstrual product usage among nursing and midwifery students in Bangladesh, International Society for Sanitation Studies Annual Conference 2023, Online, 28th November 2023.

Watanabe, R., Yokoi, T., Harada, H. 2023. Effects of Meta-Model Structure on the Prediction Model for 2-MIB Concentration Using Gated Recurrent Unit. IWA Aspire Conference & Exhibition 2023 / IWA. Kaoshung. 2023/10/24.

Yamauchi, T. 2024. Global challenges in water, sanitation and hygiene: Transdisciplinary approach. International Cameroon & Japan Workshop: Water, Sanitation and Hygiene in urban and semi-urban slums in Cameroon. University Yaoude I (Cameroon). 19th February 2024.

Yamauchi, T. 2023. Water, Sanitation and Hygiene (WASH) Co-design: Building resilient WASH solutions through transformative transdisciplinary collaborations. 11th Zambia Water Forum & Exhibition, Lusaka (Zambia), online, 12-14 June 2023.

Yamauchi, T. 2023. Food Security and Nutrition: Nutritional status, dietary intake and physical activity of rural villagers in contrasting ecological zones in Southern Zambia. Hokkaido University-University of Melbourne International Workshop "Indigenous Health: Exploring Perspectives, Well-being, and Community-based Approaches". Centennial Hall Hokkaido University, 29th June 2023.

Yamauchi, T. 2023. Co-creation with local communities: An overview of Sanitation and Health in Indonesia, Japan and Zambia. Sustainability Research and Innovation Congress 2023 Panama City (Panama), Online, 26-30 June 2023.

山内太郎 . 2024. 身体からみた「出ユーラシア」集団：社会経済、環境、健康。「出ユーラシアの統合的人類史学—文明創出メカニズムの解明—」第 10 回全体会議 . 岡山大学 (岡山県岡山市) . 2024 年 03 月 1 日 -3 日 .

山内太郎 . 2023. 狩猟採集民の子どもの活動：半定住集落と森 . (フォーラム：子どもをめぐるコミュニケーションと健康) . 日本アフリカ学会第 60 回学術大会, 幕張国際研修センター . 2023 年 5 月 14 日 .

山内太郎 . 2023. 出ユーラシア集団における WASH-Food-Body Nexus の統合 . 科学研究費助成事業新学術領域研究「出ユーラシアの統合的人類史学：文明創出メカニズムの解明」B01 会議, 同志社女子大学 (京都市), 2023 年 5 月 26 日 .

Zgambo, J., Nyambe, S., Yamauchi, T. 2023. Understanding our community through the eyes of children - a focus on peri-urban water, sanitation hygiene. 11th Zambia Water Forum & Exhibition, Lusaka (Zambia), Online, 12-14 June, 2023.

受賞

杉山由里子「日本生活学会研究論賞」

受賞論文「セントラル・カラハリ・ブッシュマンにおける社会再編と葬儀：生と死をめぐる変化への対応」『生活学論叢』40：1-14.

杉山由里子「第 15 回京都大学たちばな賞 優秀女性研究者奨励賞 (学生部門)」

京大広報誌『紅萌 44 号』(2023 年 9 月刊行)にて, 杉山由里子研究員のインタビュー記事「誰もが抱く死と向き合う難しさ. ブッシュマンの歩みに未来の鍵を探る」が掲載されました (19 頁).

詳細：『紅萌44号』PDF



関連イベント

CCI データセッション

第 110 回 2023 年 5 月 12 日

発表者：高田 明（京都大学）

「ガイ／ガナの異常出産に関するインタビューの会話分析」

第 111 回 2023 年 5 月 20 日

発表者：高田 明（京都大学）

「ガイ／ガナにおける出会いとリクエスト」

第 112 回 2023 年 5 月 21 日

「専門家向けセミナー」

- 横森大輔（京都大学）

"English 'really' and Japanese 'honto' with falling intonation as responses to informings"

- 串田秀也（大阪教育大学）

"Doctors' delivery of potentially disappointing diagnostic news and patients' responses"

- 川島理恵（京都産業大学）

"Conversation analysis on prenatal generic counseling"

第 113 回 2023 年 6 月 9 日

発表者：森田 笑（シンガポール国立大学）

「子どもによる助動詞ハルの使用」

第 114 回 2023 年 10 月 6 日

発表者：高田 明（京都大学）

「恥ずかしい」

第 115 回 2024 年 2 月 23 日

Matt Burdelski（大阪大学）と共催

発表者：Younhee Kim, Akira Takada, Tomoko Endo, Moeko Ozaki, and Haruka Kikuchi

第 116 回 2024 年 4 月 26 日

発表者：野口 朋恵（京都大学）

「ノンフォーマル教育における子どもファシリテーター間相互行為の検討：ボツワナ共和国ニューカデ村の Yiaguisi Learning Centre の事例から」



第 110 回（2023 年 5 月 12 日）の様子



第 114 回（2023 年 10 月 6 日）の様子

子育ての生態学的未来構築コロキウム

第 2 回 2023 年 5 月 19 日

対面（京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科）＋オンライン

講演者：Tanya Stivers (Professor of Sociology, UCLA)

"The Magic Word? Oh, Please. The Interactional Functions of "Please" in Requests"

第 3 回 2023 年 7 月 28 日

対面（京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科）

Co-construction of Habitus and Habitat in Namibia

講演者 1: Velina Ninkova (Development Studies, Department of International Studies and Interpreting, Faculty of Education and International Studies, Oslo Metropolitan University)

"Education has made me lazy": Reflections on the education challenges for the Omaheke Ju|' hoansi, Namibia"

講演者 2: Simon Hangula Hangula (Ministry of Environment Forestry and Tourism, Namibia)

"The African ecological mechanisms of landscape formation: Application of remote sensing and GIS"

第 4 回 2024 年 1 月 9 日

対面（京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科）

講演者 1: Saeed Radawi (Humboldt university Berlin)

"Diversity within diversity: a description of Tshaasi"

第 5 回 2024 年 1 月 15 日

対面（京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科）

Household Food Insecurity and the Nutritional Status of San Women and Young Children in Rural Botswana

講演者：Leepile Tebogo Thandie (Botswana International University of Science and Technology)

コメンテーター：渡邊純子（南九州大学 教授）

関連イベント

第6回 2024年5月23日

対面 (京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究
研究科)

講演者 1: Carolin Demuth (Department of
Communication and Psychology, Aalborg
University)


"Mother-infant communication among
Nso farmers in the Western Grassfields of
Cameroon

講演者 2: Ayana Tanaka (Graduate School
of Asian and African Area Studies, Kyoto
University)

"Attachment and Caregiving: An
Ethnography of Interactions among Young
Children and Their Caregivers of the
Baka Hunter-Gatherers in Southeastern
Cameroon"

**The 2nd Colloquium
of Ecological future making of childrearing**

【Date】
19th May 2023 (Friday) 16:45-19:00




【Venue】
#Large-sized meeting room, Inamori Memorial Foundation Building (third floor),
Kyoto University

【Hosted by】
The JSPS Grant-in-Aid for Scientific Research (S)
"Ecological future making of childrearing in contact zones between hunter-gatherers
and agro-pastoralists in Africa" (Primary Investigator: Akira Takada)

**The 3rd Colloquium
of Ecological future making of childrearing**

【Date】
28th July 2023 (Friday) 14:00-17:00



【Venue】
#Large-sized meeting room, Inamori Memorial Foundation Building (third floor),
Kyoto University

【Hosted by】
The JSPS Grant-in-Aid for Scientific Research (S)
"Ecological future making of childrearing in contact zones between hunter-gatherers
and agro-pastoralists in Africa" (Primary Investigator: Akira Takada)


【Cohosted by】
113th KUASS



第3回 Velina さんの講演

**The 4th Colloquium
of Ecological Future Making of
Childrearing**

【Date】
9th January 2024 (Tuesday) 15:00-17:00



【Venue】
#318, Inamori Memorial Foundation Building (third floor),
Kyoto University

【Hosted by】
The JSPS Grant-in-Aid for Scientific Research (S)
"Ecological future making of childrearing in contact zones between hunter-gatherers
and agro-pastoralists in Africa" (Primary Investigator: Akira Takada)

**The 5th Colloquium
of Ecological future making of childrearing**

【Date】
15th Jan 2024 (Monday) 15:00~



【Venue】
#Large-sized meeting room, Inamori Memorial Foundation Building (third floor),
Kyoto University

【Hosted by】
The JSPS Grant-in-Aid for Scientific Research (S)
"Ecological future making of childrearing in contact zones between hunter-gatherers and
agro-pastoralists in Africa" (Primary Investigator: Akira Takada)



第3回 Simon さんの講演



第6回 Carolin Demuth さんの講演


**The 6th Colloquium
of Ecological Future Making of Childrearing**

DATE
23th May, 2024 15:00-17:30

VENUE
#Large-sized meeting room, Inamori Memorial Foundation Building (third floor),
Kyoto University

HOSTED BY
The JSPS Grant-in-Aid for Scientific Research (S)
"Ecological future making of childrearing in contact zones between hunter-gatherers
and agro-pastoralists in Africa" (Primary Investigator: Dr. Akira Takada)

PROGRAM
15:00-15:15: Opening Remarks by Akira Takada (Primary Investigator)
15:15-15:30: Presentation by Carolin Demuth (Department of Communication and Psychology, Aalborg University)
15:30-15:45: Presentation by Simon (Department of Psychology, University of Cambridge)
15:45-16:00: Presentation by Velina (Department of Psychology, University of Cambridge)
16:00-16:15: Presentation by Ayana Tanaka (Graduate School of Asian and African Area Studies, Kyoto University)
16:15-16:30: Presentation by Velina (Department of Psychology, University of Cambridge)
16:30-16:45: Presentation by Carolin Demuth (Department of Communication and Psychology, Aalborg University)
16:45-17:00: Presentation by Simon (Department of Psychology, University of Cambridge)
17:00-17:15: Presentation by Ayana Tanaka (Graduate School of Asian and African Area Studies, Kyoto University)
17:15-17:30: Presentation by Velina (Department of Psychology, University of Cambridge)



関連イベント

京都大学アフリカ地域研究資料センター 公開講座

第1回 2023年10月7日

講師：高田明

「人類学から考える子育て：南部アフリカ クン・サンの事例から」

第2回 2023年11月11日

講師：杉山 由里子

「環境の変化の中で死と向き合う：南部アフリカ ブッシュマンの事例から」

第3回 2023年12月9日

講師：林 耕次

「子どもの日常から探る衛生感覚：カメルーン熱帯 バカ・ピグミーの事例から」

第4回 2024年1月13日

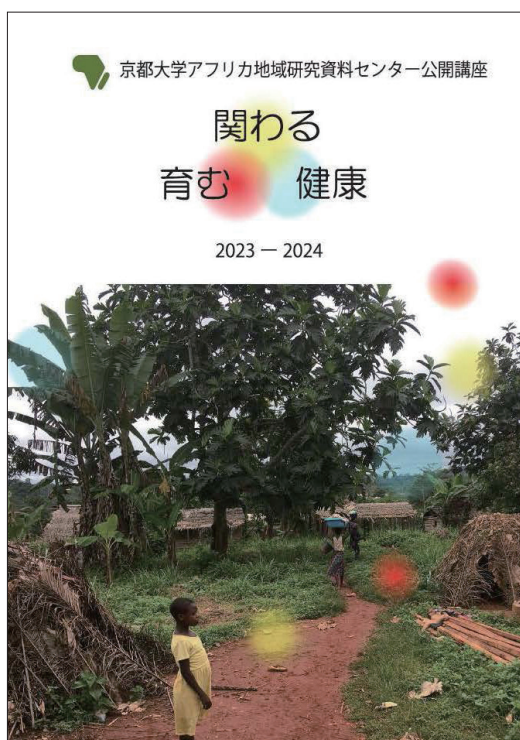
講師：安岡 宏和

「コンゴ盆地・カメルーンの熱帯雨林で野生動物マネジメントを共創する」

第5回 2024年2月3日

講師：原田 英典

「水・衛生と健康：ザンビア・ルサカの事例から」



●開講日程
 第1回 2023年10月7日(土) 高田明「人類学から考える子育て：南部アフリカクン・サンの事例から」
 第2回 2023年11月11日(土) 杉山由里子「環境の変化の中で死と向き合う：南部アフリカブッシュマンの事例から」
 第3回 2023年12月9日(土) 林耕次「子どもの日常から探る衛生感覚：カメルーン熱帯バカ・ピグミーの事例から」
 第4回 2024年1月13日(土) 安岡宏和「コンゴ盆地・カメルーンの熱帯雨林で野生動物マネジメントを共創する」
 第5回 2024年2月3日(土) 原田英典「水・衛生と健康：ザンビア・ルサカの事例から」

●時間 15:00～17:00(開場14:30)
 ●会場 京都大学稲盛財団記念館 3階大会議室(第2回11月11日のみ中会議室)
 ●受講料：無料
 ●定員：80名(先着順)

●お申し込み方法
 ・お名前(ふりがな)、Eメールアドレス/電話番号などの連絡先、受講希望講座を記して、下記のいずれかへお送りください。各講座の5日前までにお申込み下さい。
 「京都大学アフリカ地域研究資料センター 公開講座係」
 ① E-mail: manabifrica@gmail.com
 ② 郵便：〒606-8501 京都市左京区吉田下阿波町46
 お申込み頂きましたら、受講受付のご案内を返信いたします。

●会場へのアクセス
 ・京阪「神宮丸太町駅」5番出口から北へ徒歩5分。
 ・JR/近鉄「京都駅」から市バス(205/174系統)で「荒神口」下車。東へ徒歩5分。
 ・その他、阪急「河原町駅」や地下鉄丸太町線「丸太町駅」からもバスが出ています。

photo by Yuriko Sudivama

詳細：リーフレットPDF



インタビュー記事

高田明 (京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科) へのインタビュー記事

<https://www.cci.jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/efm/member-interview-takadaakira/>

中川裕 (東京外国語大学総合国際学研究院) へのインタビュー記事

<https://www.cci.jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/efm/member-interview-nakagawa/>

原田英典 (京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科) へのインタビュー記事

https://www.cci.jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/efm/harada_20231201/

安岡宏和 (京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科) へのインタビュー記事

https://www.cci.jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/efm/yasuoka_20231109/

橋彌 和秀 (九州大学人間環境学研究院) と **Tebogo Thandie**

Leepile (Botswana International University of Science and Technology) へのインタビュー記事

<https://www.cci.jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/efm/en/>

本プロジェクトウェブサイトのお知らせ

<https://www.cci.jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/efm/>



2023 年度 年次報告書
2024 年 6 月 7 日 発行
編集・発行: 高田 明 (研究代表)
E-mail: cci.takada.lab@gmail.com